



U

- [Uc wsapi](#) (2 ページ)
- [uc secure-wsapi](#) (3 ページ)
- [アンバンドル vfc](#) (4 ページ)
- [update-callerid](#) (6 ページ)
- [url](#) (7 ページ)
- [url \(dial peer\)](#) (9 ページ)
- [URL \(SIP\)](#) (10 ページ)
- [使用状況表示](#) (12 ページ)
- [プロキシを使用する](#) (13 ページ)
- [user-id](#) (16 ページ)

Uc wsapi

特定のアプリケーションに対して非セキュアな Cisco Unified Communication IOS サービス環境を設定するには、**uc wsapi** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uc wsapi
no uc wsapi

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

このコマンドにデフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドは、HTTPS 接続を使用して設定された Cisco Unified Communication IOS サービス環境のサポートを拡張します。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

uc wsapi コマンドを使用して、非セキュア モードで Cisco Unified Communication IOS サービス設定環境に入ります。



(注) セキュアモードから非セキュアモードに移行する場合は、非セキュアモードで既存の **uc secure-wsapi** 構成を削除してから、再度構成します。

例

次の例では、Cisco Unified Communication IOS サービス設定を入力します。

```
Router(config)# uc wsapi
Router(config-uc-wsapi)#
```

関連コマンド

コマンド	description
provider	プロバイダサービスを有効にします。

uc secure-wsapi

特定のアプリケーションに対して安全な Cisco Unified Communication IOS サービス環境を設定するには、**uc secure-wsapi** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

uc secure-wsapi
no uc secure-wsapi

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

このコマンドにデフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

uc secure-wsapi コマンドを使用して、セキュア モードで Cisco Unified Communication IOS サービス設定環境に入ります。



- (注) 非セキュアモードからセキュアモードに移行する場合は、既存の **uc wsapi** 構成を削除し、セキュアモードで再構成します。

次の例では、Cisco Unified Communication IOS サービス設定をセキュアモードで入力します。

```
Router(config)# uc secure-wsapi
Router(config-uc-wsapi)#
```

関連コマンド

コマンド	description
provider	プロバイダサービスを有効にします。

アンバンドル vfc

DSPWare を VCWare からアンバンドルし、デフォルトのファイルと機能リストをデフォルト値で設定するには、特権 EXEC モードで **unbundlevfc** コマンドを使用します。

unbundle[high-complexity | medium-complexity]vfc スロット番号

構文の説明	high-complexity	(オプション) 高複雑度のファームウェアセット。
	medium-complexity	(オプション) 中程度の複雑さのファームウェアセット。
	スロット-番号	音声機能カード (VFC) スロット番号。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3(2)NA	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.0(2)XH	high-complexity および medium-complexity キーワードが追加されました。
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン

VFC には、VFC フラッシュ メモリに保存された単一のバンドル イメージ VCWare が付属しています。このコマンドを使用して、バンドルされたイメージを特定のファイルにバンドル解除し、フラッシュメモリに書き込みます。VCWare がバンドル解除されると、DSPWare がフラッシュメモリに自動的に追加され、機能と既定のファイルリストの両方が作成され、これらのリストにそのバージョンの VCWare の既定のファイルが入力されます。デフォルトのファイルリストには、システムの起動に使用されるファイルが含まれています。機能リストは、H.323 機能ネゴシエーションに使用できる音声コーデックを定義します。これらのファイルは、カードの初期構成時およびその後のファームウェアのアップグレード時に使用されます。

VFC フラッシュにコピーしたばかりの VFC ソフトウェア イメージをバンドル解除する前に、**clearvfc** コマンドを使用します。DSP ファームウェアセットをバンドル解除すると、デフォルトファイルと機能リストが書き換えられます。アンバンドル後、変更を有効にするにはルーターをリロードする必要があります。

例

次の例では、複雑性の高いファームウェア一式をスロット 2 でバンドル解除します。

```
Router# unbundle high-complexity vfc 2
```

関連コマンド

Command	Description
clearvfc	VFC をリセットします。
copyflashvfc	Cisco AS5300 マザーボードから VFC フラッシュ メモリに VCWare の新しいバージョンをコピーします。
copyftpvfc	VCWare の新しいバージョンを TFTP サーバから VFC フラッシュ メモリにコピーします。

update-callerid

発信者 ID の更新の送信を有効にするには、セッション開始プロトコル (SIP) 設定モードで **udpate-callerid** コマンドを使用します。この設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

udpate-callerid
noudpate-callerid

構文の説明

このコマンドにはキーワードも引数もありません。

コマンド デフォルト

デフォルトでは有効になっています。

コマンド モード

セッション開始プロトコル (SIP) 設定モード (conf-voi-serv)。
Voice class tenant 構成モード。

コマンド履歴

リリース	変更
15.4(1)T Cisco IOS XE 3.11S	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、update-callerid 構成は、グローバルレベルで有効になっており、CUBE は、CUBE で処理される通話転送中に UPDATE メッセージを送信します。Callerid UPDATE を送信する必要がない場合は、この構成をグローバルレベルで無効にします。特定のトランクに、callerid UPDATE を送信する必要がある場合は、テナントレベルで有効にできます。

例

次の例は、**udpate-callerid** コマンドを使用して、udpate-callerid を有効にする方法を示しています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice service voip
Device(conf-voi-serv)# sip
Device(conf-serv-sip)# udpate-callerid
Device(conf-serv-sip)# end
```

関連コマンド

コマン ド	description

url

インターネット サービス プロバイダー (ISP) アドレスを設定するには、決済設定モードで **url** コマンドを使用します。アドレスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

urlURL アドレス

no urlURL アドレス

構文の説明	URL アドレス	URL アドレス。有効な URL アドレスは <code>http://fully qualified domain name[:port]/[URL]</code> です。
-------	----------	---

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 決済の構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(4)XH1	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 で導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドの設定構文が変更されました。 url コマンドを入力する前に、設定プロバイダーをシャットダウンする必要があります。

使用上のガイドライン アドレス タイプは複数回設定できます。決済サーバに複数の URL を設定した場合、ゲートウェイは、これらのアドレスを設定した順序で各 URL に要求を送信しようとします。

最初の URL が失敗した場合、ゲートウェイは次の URL を試行します。最初の URL が使用可能になると、ゲートウェイは URL のリストをループするまで元に戻りません。次に例を示します。

url http://example1.com

url http://example2.com

url http://example3.com

http://example1.com が失敗した場合、ゲートウェイはリクエストを http://example2.com に送信します。http://example1.com がオンラインに戻ると、ゲートウェイは引き続き http://example2.com にリクエストを送信します。その後、http://example2 がダウンすると、ゲートウェイは http://example3.com にリクエストを送信します。

http://servicepoint3.com がダウンしている場合、ゲートウェイはそのリクエストを http://example1.com にルーティングします。

例

次の例は、決済サーバに設定された4つのURLを示しています。

```
settlement 0
url http://1.2.3.4/
url http://1.2.3.4:80/
url https://1.2.3.4:4444/
url https://example.com:443/
```

関連コマンド

コマンド	description
connection-timeout	接続タイムアウトを設定します。
customer-id	顧客 ID を設定します。
device-id	デバイス識別を設定します。
encryption	暗号化方式を指定します。
max-connection	最大同時接続数を設定します。
response-timeout	応答タイムアウトを設定します。
retry-delay	再試行遅延を設定します。
retry-limit	接続再試行の制限を設定します。
session-timeout	セッションタイムアウトを設定します。
settlement	決済設定モードを開始します。
showsettlement	すべての決済サーバトランザクションの構成を表示します。
shutdown	決済プロバイダを表示します。
no shutdown	決済プロバイダーをシャットダウンします。
type	プロバイダーの種類を指定します。

url (dial peer)

宛先 E.164 パターン マップに E.164 パターンが設定されているテキスト ファイルの URL を指定するには、ダイヤルピア設定モードで **url** コマンドを使用します。テキスト ファイルの URL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

url *url*
no url *url*

構文の説明

URL	E.164 パターン マップで使用されている、内部または外部に保存されているテキスト ファイルの URL。
------------	---

コマンド デフォルト

E.164 パターン マップ上に設定されているテキスト ファイルの URL が指定されていません。

コマンド モード

ダイヤル ピア 構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(4)M	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、E.164 パターン マップに設定されたテキスト ファイルの URL を指定する方法を示しています。

```
Device(config)# dial-peer voice 123 voip system
Device(config-dial-peer)# url http://http-host/config-files/destination-pattern-map.cfg
```

関連コマンド

コマンド	description
destination e164-pattern-map	E.164 パターン マップをダイヤル ピアにリンクします。
e164	宛先 E.164 パターン マップに E.164 パターン エントリを設定します。
show voice class e164-pattern-map	音声クラス E.164 パターン マップの設定の詳細を表示します。
voice class e164-pattern-map load	テキスト ファイルで指定された宛先 E.164 パターン マップを読み込みます。

URL (SIP)

URL を VoIP SIP 通話の Session Initiation Protocol (SIP)、SIP secure (SIPS) または telephone (TEL) のいずれかに構成するには、SIP configuration mode voice class tenant 構成モードで、**url** コマンドを使用します。デフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
url {sip | sips | system |tel[phone-context]}
no url
```

構文の説明

sip	VoIP 通話用の SIP 形式の URL を生成します。
sips	VoIP 通話用の SIPS 形式の URL を生成します。
system	URL がグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。
tel	VoIP 通話用の TEL 形式の URL を生成します。
phone-context	(オプション) 電話コンテキストパラメータを TEL URL に追加します。

コマンド デフォルト

SIP URL

コマンド モード

SIP 構成 (conf-serv-sip)。

Voice class tenant configuration (config-class)。

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。このリリースには、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 プラットフォームに実装されました。
12.4(6)T	sips キーワードが追加されました。
12.4(22)YB	phone-context キーワードが追加されました。
12.4(24)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(24)T に統合されました。
15.6(2)T および IOS XE Denali 16.3.1	このコマンドは、キーワード system を含むように修正されました。This command is now available under voice class tenants.

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、発信 SIP INVITE 要求の要求行で SIP、SIPS、または TEL URL を使用するため、ユーザエージェントクライアント (UAC) にのみ影響します。SIP URL は SIP 要求の発信元、受信者、宛先を示します。TEL URL は音声通話の接続を示します。

voice-classsipurl コマンドは、SIP global 構成モードで、構成した **url** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-classsipurl** コマンドが **system** キーワードを使用して設定されている場合、ゲートウェイは **url** コマンドでグローバルに設定された内容を使用します。

例に示すように、**voice service VoIP** 構成モードを開始した後、SIP 構成モードを開始します。

例

次の例では、SIP 形式で URL を生成します。

```
voice service voip
sip
url sip
```

次の例では、SIPS 形式で URL を生成します。

```
voice service voip
sip
url sips
```

次の例では、音声クラスのテナント設定モードで URL を生成します。

```
Router(config-class)# url system
```

次の例では、TEL 形式の URL を生成します。

```
voice service voip
sip
url tel
```

次の例では、TEL 形式の URL を生成し、**phone-context** パラメータを追加します。

```
voice service voip
sip
url tel phone-context
```

関連コマンド

コマンド	description
sip	voice service VoIP 構成モードから SIP 構成モードを開始します。
voice-classsipurl	SIP、SIPS、または TEL 形式で URL を生成します。

使用状況表示

オプションの使用インジケータを設定するために使用される **Annex G neighbor usage** モードに入るには、**Annex G neighbor** 構成モードで、**usageindication** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

usage-indication
nousage-indication

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

無効

コマンド モード

Annex G neighbor

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

usage-indication コマンドを使用して、モードに入り、使用インジケータの特徴を設定します。設定する境界要素ネイバーごとにこのコマンドを繰り返します。



(注) 各サービス関係を有効にするには、**no shutdown** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例は、**Annex G** ネイバー使用モードに入る方法を示しています。

```
doc-rtr3(config-nxg-neigh-usg)#
usage-indication
```

関連コマンド

コマンド	description
access-policy	ネイバーが明示的に設定されている必要があります。
inboundttl	インバウンドの Time to Live 値を設定します。
outboundretry-interval	ボーダー要素間の外線関係を確立するための再試行期間を定義します。
retryinterval	配信の試行間隔を定義します。
retrywindow	境界要素が配信を試みる期間を定義します。
shutdown	ボーダー要素を有効または無効にします。

プロキシを使用する

ローカルゾーンとリモートゾーン間または H.225 Annex G 境界要素間の通話のプロキシ通信を有効にするには、ゲートキーパー設定モードで **use-proxy** コマンドを使用します。リモートゾーンまたは H.225 Annex G 境界要素のプロキシ設定エントリを削除するには、またはローカルゾーンとリモートゾーンまたは H.225 Annex G 境界要素間のプロキシ通信を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

use-proxy ローカルゾーン名 {**default** | **h323-annexg** | **remote-zone** リモートゾーン名} {**inbound-to** | **outbound-from**} {**gateway** | **terminal**}

no use-proxy ローカルゾーン名 {**default** | **h323-annexg** | **remote-zone** リモートゾーン名} [{**inbound-to** | **outbound-from**} {**gateway** | **terminal**}]

構文の説明

ローカル-ゾーン-名	ゲートキーパーの名前またはゾーン名。通常は、ゲートキーパーの完全ドメイン修飾ホスト名です。
default	use-proxy コマンドと remote-zone キーワードまたは h323-annexg キーワードによって定義されていないすべての呼び出しのデフォルトのプロキシポリシー。
h323-annexg	ゲートキーパーと同一の場所にある H.225 Annex G 境界要素との間の通話に対するプロキシポリシー。
remote-zone リモート-ゾーン-名前	特定のリモートゲートキーパーまたはゾーンとの間の通話のプロキシポリシー。
inbound-to	リモートゾーンからローカルゾーンに着信する通話に適用されるプロキシポリシー。各 use-proxy コマンドは、1方向のみのポリシーを定義します。
outbound-from	ローカルゾーンからリモートゾーンへの発信通話に適用されるプロキシポリシー。各 use-proxy コマンドは、1方向のみのポリシーを定義します。
gateway	ポリシーが適用されるローカルデバイスの種類。 gateway オプションは、ポリシーをローカルゲートウェイにのみ適用します。
terminal	ポリシーが適用されるローカルデバイスの種類。 terminal オプションは、ポリシーをローカル端末にのみ適用します。

コマンドデフォルト

ローカルゾーンでは、ローカル H.323 端末との間の着信コールと発信コールの両方にのみプロキシを使用します。プロキシは、ローカルゲートウェイとの間の着信コールと発信コールの両方に使用されません。Cisco IOS リリース 12.3(7)T より前のリリースでは、H.225 Annex G 境界要素を使用する着信コールと発信コールの両方でプロキシが使用されません。

コマンドモード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(5)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。 Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。
12.3(7)T	h323-annexg キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ゲートキーパーの以前のバージョンで使用されていた **zoneaccess** コマンドを置き換えます。ゲートキーパーの以前のバージョンをアップグレードすると、すべての **zoneaccess** コマンドが **use-proxy** コマンドに変換されます。 **showgatekeeperzonestatus** コマンドを使用して、ゲートキーパー プロキシ構成を確認できます。

ドメイン名が **cisco.com** の場合、ゲートキーパー名は **gk1.cisco.com** になります。ただし、ゲートキーパーが複数のゾーンを制御している場合、各ゾーンのゲートキーパーの名前は一意の文字列である必要があります。

例

次の例では、ローカルゾーン **sj.xyz.com** は、リモートゾーン **tokyo.xyz.com** および **milan.xyz.com** からローカルゾーン内のゲートウェイへの着信呼び出しにプロキシを使用するように構成されています。 **sj.xyz.com** ゾーンは、ローカルゾーンのゲートウェイからリモートゾーン **tokyo.xyz.com** および **milan.xyz.com** への発信呼び出しにプロキシを使用するようにも構成されています。

```
use-proxy sj.xyz.com remote-zone tokyo.xyz.com inbound-to gateway
use-proxy sj.xyz.com remote-zone tokyo.xyz.com outbound-from gateway
use-proxy sj.xyz.com remote-zone milan.xyz.com inbound-to gateway
use-proxy sj.xyz.com remote-zone milan.xyz.com outbound-from gateway
```

デフォルトモードではすべてのゲートウェイ呼び出しのプロキシ通信が無効になるため、プロキシを使用できるのは上記のゲートウェイ呼び出しのみです。

次の例では、ローカルゾーン **sj.xyz.com** は、ローカルゾーン内の H.323 端末から指定されたリモートゾーン **germany.xyz.com** への発信コールに対してのみプロキシを使用します。

```
no use-proxy sj.xyz.com default outbound-from terminal
use-proxy sj.xyz.com remote-zone germany.xyz.com outbound-from terminal
```



(注) リモートゾーン `germany.xyz.com` からローカルゾーン `sj.xyz.com` の H.323 端末に着信するすべての通話では、デフォルトが適用されるため、プロキシが使用されます。

次の例では、プロキシ構成リストからリモートゾーン `germany.xyz.com` の 1 つ以上のプロキシステートメントを削除します。

```
no use-proxy sj.xyz.com remote-zone germany.xyz.com
```

このコマンドは、リモートゾーン `germany.xyz.com` のすべての特別なプロキシ構成を削除します。このようなコマンドを入力すると、ローカルゾーン (`sj.xyz.com`) と `germany.xyz.com` 間のすべての呼び出しは、**use-proxy** オプションを使用するコマンドによって定義されたデフォルト値に従って処理されます。 **default**

指定されたリモートゾーンからローカルゾーン内の H.323 端末への着信コールに対するプロキシの使用を禁止するには、次のようなコマンドを入力します。

```
no use-proxy sj.xyz.com remote-zone germany.xyz.com inbound-to terminal
```

このコマンドはデフォルトを上書きし、リモートゾーン `germany.xyz.com` からローカルゾーン `sj.xyz.com` 内のすべての H.323 端末への着信コールに対するプロキシの使用を無効にします。

次の例では、ローカルゾーン `sj.xyz.com` は、ゲートキーパーと同じ場所にある H.225 Annex G 境界要素を使用する着信コールと発信コールにプロキシを使用するように設定されています。

```
use-proxy sj.xyz.com h323-annexg inbound-to gateway
use-proxy sj.xyz.com h323-annexg outbound-from gateway
```

次の例では、ローカルゾーン `sj.xyz.com` は、ゲートキーパーと同じ場所にある H.225 Annex G 境界要素を使用する着信コールと発信コールにプロキシを使用しないように設定されています。

```
no use-proxy sj.xyz.com h323-annexg inbound-to terminal
no use-proxy sj.xyz.com h323-annexg outbound-from terminal
```

次の例では、プロキシ構成リストから H.225 Annex G 境界要素の 1 つ以上のプロキシステートメントを削除します。

```
no use-proxy sj.xyz.com h323-annexg
```

関連コマンド

Command	Description
<code>showgatekeeperzonestatus</code>	ゲートキーパーに関連するゾーンの状態を表示します。

user-id

Session Initiation Protocol (SIP) uniform resource identifier (URI) の **user-id** フィールドに基づいて通話を照会するには、**voice URI class** 構成モードで、**user-id** コマンドを使用します。一致パターンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

user-id ユーザ名パターン

nouser-id

構文の説明	ユーザ名パターン	SIP URI の user-id フィールドと照合する Cisco IOS 正規表現パターン。最大 32 文字です。
-------	----------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード Voice URI class configuration

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドは、SIP URI の音声クラスでのみ使用できます。
- 音声クラスで **pattern** コマンドを使用する場合、このコマンドは使用できません。 **pattern** コマンドは URI 全体に一致しますが、このコマンドは特定のフィールドのみに一致します。

例

次の例では、SIP URI の **user-id** フィールドに一致する **voice class** を定義します。

```
voice class uri r100 sip
  user-id abc123
```

関連コマンド	コマンド	description
	destinationuri	発信コールの宛先 URI にダイヤルピアを一致させるために使用される音声クラスを指定します。
	host	SIP URI のホストフィールドに基づいて通話を照合します。
	incominguri	VoIP ダイヤルピアを着信呼び出しの URI と照合するために使用される音声クラスを指定します。
	pattern	SIP または TEL URI 全体に基づいて通話を照合します。

コマンド	description
phonecontext	設定されたパターンに一致する phone-context フィールドを含まない URI をフィルタリングします。
voiceclassuri	SIP または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを照合するための音声クラスを作成または変更します。
voiceclassurisippreference	SIP URI の音声クラスを選択するための優先度を設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。